



全国ユース環境ネットワーク  
高校生参加による環境体験プログラム  
「北海道の農林漁業に触れる。～環境保全と第一次産業を体験する～」  
報告書

2016/8/8～10

コンセプト=「Small Hokkaido」

現代のハイテクが集まる千歳空港や苫東の工業地帯のすぐ近くにある、北海道の自然景観と農林漁業端的に表しているフィールドを活用。参加者は農家、酪農畜産家での民泊体験や環境教育の実践の場において自分たちでできることを計画し、実施するチャレンジプログラムを通じて、北海道の農林漁業の触れ、今の北海道の環境保全に対する理解が深まり、自己の能力開発に寄与する。

# 目次

## 目次

開催内容	1
実施体制	1
活動の目的	2
開催の目的	3
プログラムの目的・目標	3
活動のようす	4
1日目（8月8日 天気：晴れ）	4
2日目（8月9日 天気：晴れ）	5
3日目（8月10日 天気：晴れ）	7
活動の成果	9
参加者アンケートより（一部）	10

# 開催内容

## 開催内容

対 象 :

人 数 : 高校2年生4名、引率教員1名

日 程 : 2泊3日

期 間 : 8月8日(月)~10(水)

活動場所 : 安平町、千歳市、苫小牧市

## 実施体制

主 催 : 独立行政法人環境再生保全機構

事 務 局 : 全国ユース環境ネットワーク事務局

TEL 044-520-9505 FAX 044-520-2190

現地コーディネーターおよび活動提供 : 特定非営利活動法人いぶり自然学校

協力団体 : 環千歳空港子どもグリーンツーリズム推進協議会、

ありがとうファーム 松本牧場 中道牧場 松原温泉

# 開催内容

## スケジュール

1日目（8月8日）は酪農・畜産の日 ～ようこそ北海道へ！～

10：00 伊丹空港発

12：00 新千歳空港着

13：00 移動

14：00 プログラム①北海道的景観体感 カヌーで美々川くんだり

16：30 プログラム②酪農・畜産民泊体験 安平町

夕方作業、夕食、入浴、ホストファミリーと交流

2日目（8月9日）は農業の日 ～自然の力を生かした農業を体験しよう～

午前中 朝の仕事体験、朝食、午前の仕事体験

11：00 移動 安平町内の特産物を生かしたレストランで昼食

13：00 プログラム③ 畑作農家民泊体験 千歳市

お仕事体験、入浴（松原温泉）、夕食

夕食後 プログラム④ アクションプラン作り

畑作農家さんがよりよくなる方法を考え出す。

3日目（8月10日）はアクションの日 ～北海道と、農業と、私たち～

午前中 プログラム⑤ 計画を実行しよう

12：00 昼食

13：00 プログラム⑤ 活動の振り返り

15：00 空港へ

16：30 新千歳空港発

18：40 伊丹空港着

# 活動の目的

## 活動の目的

### 開催の目的

農家、酪農畜産家での民泊体験や環境教育の実践の場において自分たちでできることを計画し、実施するチャレンジプログラムを通じて、北海道の農林漁業の触れ、今の北海道の環境保全に対する理解が深まり、参加者の能力開発に寄与する。

### プログラムの目的・目標

#### ①ファームインプログラム

1日目は安平町。酪農（乳牛を育て、牛乳を搾る）、畜産（主に牛肉）馬産（主に競走馬）が盛んな地域。そのうち酪農と畜産を展開している方のお宅に宿泊。夕方の作業のお手伝いやホストファミリーの方と交流体験します。

2日目は千歳の東側。実は石狩平野の中でも最大の収量を誇る穀倉地域。その豊かな地力を生かして「無肥料・無農薬・自家採種」という手法で畑作を展開しているありがとうファームを訪れる。畑の作業を手伝いながら、新しくもどこか懐かしい農業への思いを学びます。

民泊でのスケジュールは、ホストファミリーの方と相談して決めます。何時に起きて、何をして、どうやって生活するかなど、その場で十分に話し合っ決めて決めます。

#### ②体験プログラム

空港周辺でありながら、いかにも北海道らしい川「美々川」をカヌーでくだります。小さなながらも雄大な北海道景観を体感します。

#### ③チャレンジプログラム

2日目にお世話になったありがとうファームのフィールド、体験した活動を通して、自分たちが貢献できることは何かを考え、お世話になった農場がより良くなる方法を考え出す話し合いをします。考えたアイデアを形にするために行動を起こします。今ある資源、今ある道具、今ある知恵を総動員して、何か形に残そう。何か結果を残すことにチャレンジします。最後にこれまでの活動全体、チャレンジを振り返って、これからの自分の行動を変えるためのアイデアを創出します

# 活動のようす

## 活動のようす

### 1日目（3月25日 天気：晴れ）

#### プログラム①北海道の景観体感 カヌーで美々川くだり

空港から車で20分移動し、美々川ではカヌーに乗って川下りを体験しました。様々な体験の前に、空港周辺の苫小牧、千歳の沼地などが多い地質的なことや源流のまま流れている美々川の性質の説明と体を動かして緊張や旅の疲れをほぐすべく、ライフジャケットやパドルの持ち方などのカヌーのセーフティトークを受けました。4人の高校生は2つに分かれて、カヌーに乗り、3kmほどの道のりを漕ぎました。カヌーの漕ぎ方は最初ぎこちなく右へ左へと蛇行していたが、徐々に慣れて、まっすぐ前に進むことができるようになりました。その道中、空港からの飛行機を眺めたり、白鳥などの野鳥にも遭遇し、水を掛け合う水遊びもし、北海道の景観を体験的に楽しむことができました。

#### プログラム②酪農・畜産民泊体験 安平町

カヌー終了後、車で30分移動し、安平町追分地区に到着しました。2つのグループに分かれて、夕方から翌日の午前中まで、民泊をさせていただき酪農・畜産を営んでいるお宅を訪問し、それぞれのグループで夕方から夕食まではお手伝いをしました。松本牧場では搾乳の準備で牛に触れ、中道農場ではトラクターやコンバインに乗せてもらいながら、機械の仕組みを学びました。食卓を囲みながら、北海道での生活のことや仕事のこと、人生についてなど考えや思っていることをホストファミリーとお話して盛り上がりました。



## 活動のようす



### 2日目（3月26日 天気：晴れ）

10時半までの時間はそれぞれのお宅で過ごしました。松本牧場では牛舎の掃除、えさやりのお手伝いをしました。中道農場では肉牛への餌やり、収穫した麦を入れるコンテナの準備をしました。

午前中のお手伝い終了後、民泊させていただいたお宅の方とお別れし、昼食は2グループが再集合し、安平町内の特産物を生かしたレストランでいただきました。

#### プログラム③ 畑作農家民泊体験 千歳市

昼食後、車で40分移動し、千歳市に到着しました。1泊2日農家民泊体験をさせていただき、「無肥料・無農薬・自家採種」という手法で畑作を展開している「ありがとうファーム」を訪問し、夕方の温泉までの時間は、畑作や活動フィールドをご案内してもらい、その後、冬に暖を取るための薪を作る薪割りのお手伝いをしました。入浴後には夕食を囲みながら、高校生たちが普段学んでいる「水力発電」についての話で盛り上がった。

#### プログラム④ アクションプラン作り

夕食後は、ありがとうファームのホストファミリーである荒さんから生活で困っていることやニーズを聞き取り、自分たちの力でできることを組み合わせて、ありがとうファームさんの生活がよりよくなる方法を考え出す話し合いを行いました。話し合いの結果、近くの水路の水という環境を生かし、倉庫にある自転車の車輪を使い、自分たちが学んできた知識を駆使して、畑の外灯が灯せるくらいの電力を生み出せる水力発電機づくりをしようということになりました。

## 活動のようす



## 活動のようす

3日目（3月27日 天気：晴れ）

プログラム⑤ 計画を実行しよう

昨晩考えて話し合ったことを、午前9時から実行に移すこととなりました。まずは材料探しからスタート。使わなくなった自転車はないかと荒さんに相談したら、近所の方から自転車をもたらってきてくれて、水力発電機の車輪を確保できました。次に道具の確保です。車輪を本体から切断し加工するために、レンチ、ドライバーやグラインダー、シリンダーなどの道具も荒さんをお願いして、用意してもらいました。車輪を回すために水の抵抗を受ける部分には廃材の板を採用して、車輪にかみ合うようにノコギリで加工し、工夫しました。完成後、実際に水路に設置してみたところ、車輪は水の勢いを利用して回り、自転車の前タイヤのライトに灯りがつきました。昨晩考えて話し合って作った計画通り、自分たちが思い描いていたイメージ通りの完成までには至らなかったが、他者に相談し、仲間で話し合い、課題を解決させ「水力発電機」を製作したという結果を残すことができました。

プログラム⑤ 活動の振り返り

計画を実行させ、昼食後に、3日間を通じた活動の振り返りを行ないました。印象に残ったもの、そのときの感情、自分たちが取り組んだことがもっと良くなるにはどうしたらいいのか、帰ってから自分たちのフィールドで取り組むとしたらどうするのか、自分の町や人生でこの経験をどう生かすのかななどを紙に落とし、発表し共有し合いました。



## 活動のようす



# 活動の成果

## 活動の成果

### ①価値観の変化

日常生活で交流する機会が少ない、北海道の自然や文化を生かした農家や畜産酪農家の人たちと交流する機会を経て、自分たちになかった価値観に触れることができたことは、直接的に農業や酪農に対する理解を深めるだけでなく、「人のお世話になる」という活動そのものが、その先の多様なモノの考え方ができるきっかけとなりました。初めて出会う人にお世話になることが、「世話になった以上自分がその場所で何に貢献できるか」、というリアルな思案を引き出すことができたように思います。また、到着直後の美々川のカヌーや、民泊先を訪れた時に目に飛び込んできた北海道らしい景観の体感とそのガイディングは、旅情を一気に高めるだけでなく「自分の町との比較による理解」を促進させることとなり、生徒の皆さんの知的欲求を高めることができました。

### ②日常生活に生かすアクションの醸成

水力発電機を製作するチャレンジプログラムを経て、普段自分たちが真剣に取り組んでいる学習内容やそこで得た知識・智恵が、リアルに役立つ、生かされる、貢献できる、喜ばれる、という場と機会を通して、まずは生徒の自尊感情や自己肯定感を高めることができた実感しています。また、「何をいつまでに達成するか、その方法はどうか」という判断や決断は生徒たちの裁量に任せられており、主体的に物事を進める実践的な活動であっただけに、理論だけではうまくいかなかったり、意外とうまくいったりという経験値が高まるだけでなく、まだまだ足りないところや改善すべき点など、自分たちの学習や研究をリアルな現場から自己評価をすることができ、これまで学んできた知識、これから学ぶべきことを再確認するきっかけを創出することができました。このように、北海道での非日常的な活動を通して、京都に戻った後の「普段の日常生活・高校生活」の向上心を促すことができたことは、高校生の持続的、いやより発展的な学習や研究活動の推進に貢献できたと考えています。

## 参加者アンケートより（一部）

### 参加者アンケートより（一部）

- 酪農家や農家の人たちの役に立つようなものをつくる人材になりたいと思いました。
- 酪農では知らないことが多かったので、いろいろな疑問があり、その疑問に対して、丁寧に教えてくださったので、ありがたかったです。
- 大自然の中でエネルギーをためて、自分の家にあかりをつけるなど、自給自足はあまり見られないので、いいものを見せてもらいました。
- 発電機をつくるとは思わなかったし、それが思ったよりもちゃんと発電できてよかった。
- 酪農家さんの牛舎のにおいがすごかった。このにおいをどうにかして、いい匂いに変えられないか考えてみたい。
- 薪割りが思っていたよりもしんどかったけど、楽しかった。
- 軽トラの荷台に乗ったのがすごく楽しかったし、風がとても気持ち良かった。
- 技術とかではなく、一から自分で考えて取り組むという気持ちを勉強やこれからの人生で生かしたい。